

平成24年  
3月27日

# 病害虫発生予報 4月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

圃場をよく観察し，病害虫発生予報を活用して  
的確な防除を行いましょう。  
～予報は毎月，月末に発表します～

## < 目 次 >

### I. 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

ナシ：黒星病	1
果樹共通：カメムシ類（越冬世代成虫）	2
【防除所レポート】：麦類赤かび病	3
イチゴ：ハダニ類	4
促成・半促成ピーマン：うどんこ病，アザミウマ類	4
施設野菜（促成トマト，促成キュウリ，イチゴ，促成・半促成ピーマン）：灰色かび病	5

#### 【その他の病害虫】

麦類，イチゴ，促成ピーマン，促成キュウリ，メロン，春ハクサイ，春レタス	5
トマト黄化葉巻病	7
【防除所レポート】：平成24年度赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例の修正について	7

### II. 今月の気象予報

最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（[http://www.acis.famic.go.jp/index\\_kensaku.htm](http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)）で確認することができます。

詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel：029-227-2445

予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
遅い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① ナシの開花は平年より遅いと予想され（幸水満開日（笠間市）：本年予想 4/28, 平年 4/22），果そう基部での発生時期も平年より遅いと予想される。
- ② 昨年 10 月下旬の調査で，秋型病斑の発病度は平年よりやや高く，発生地点率は平年より高かったため，菌の越冬量は平年よりやや多いと予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① 黒星病菌は落葉上で越冬して第一次伝染源となるので，圃場内に落葉が残っている場合はロータリーですき込む等，適切に処分する。
- ② りん片，芽基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋めるなど適切に処分する。
- ③ りん片脱落直前および落花期の DMI 剤散布は特に重要なので，圃場をよく観察し，ナシの生育に合わせて確実に実施する。
- ④ 薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [ナシ黒星病の秋型病斑調査]

- ① 昨年 10 月下旬に，ナシ黒星病の秋型病斑調査を行ったところ，発病度は 1.0（11 年中 5 位，図），発生地点率は 84%（11 年中 1 位）であった。
- ② 前年の秋型病斑の発病度が高くなると，翌年の 4～5 月の発病葉率も高くなる傾向にある（図）。

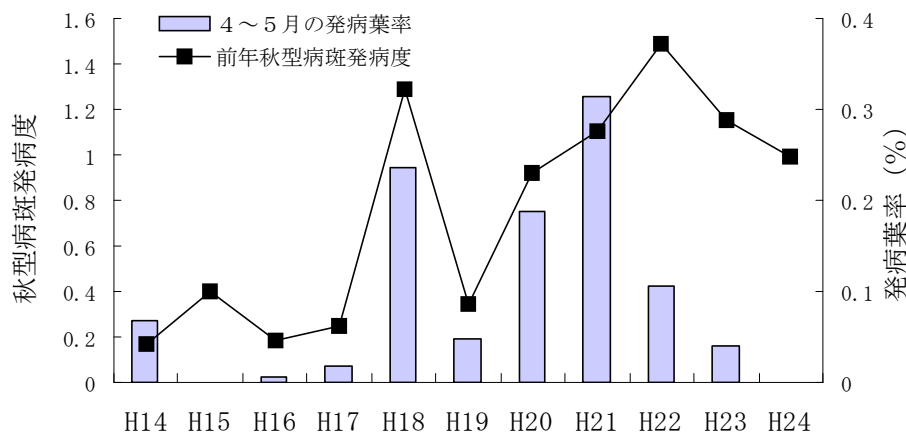


図 前年の秋型病斑発病度と4～5月の発病葉率

※ 秋型病斑の発病度は1圃場あたり 300 葉調査し，以下の式で算出した。

$$\text{発病度} = \Sigma (2A+B) / (2 \times \text{調査葉数}) \times 100$$

A：病斑が葉全体の 1/2 以上に認められる葉数。 B：病斑が葉全体の 1/2 未満に認められる葉数。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類（越冬世代成虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 本年 2 月上旬の越冬量調査におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数は、平年より多く（過去 11 年間の中で多発生した平成 18 年に次いで多い）、越冬地点率は平年よりやや高い。
- ② 本年のスギやヒノキの花粉量は平年並か、平年よりやや少ないと予想されており（環境省発表）、果樹カメムシ類の主要な餌であるスギやヒノキの球果数も平年並かやや少ないと予想される。

[防除上注意すべき事項]

- ① ナシ園では、5 月に多目的防災網（6 mm 目または 9 mm クロス目以下）を張ると防除対策として有効である。（平成 24 年 2 月 16 日発表の病害虫速報 No. 8 参照）

#### 防除所レポート [果樹カメムシ類の越冬量調査]

- ① 本年 2 月上旬に県内 42 地点の山林の落葉や表層土を 30L/地点を採集し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬量を調査したところ、越冬量は 1 地点あたり 6.6 頭（11 年中 2 位）、越冬地点率は 71%（11 年中 3 位）であった。
- ② 本年 2 月上旬に、笠間市に設置したトラップでクサギカメムシ成虫の越冬数を調査したところ、越冬量は 1 トラップあたり 24.0 頭であった（6 年中 2 位）。
- ③ 病害虫防除所の過去の調査より、カメムシ類の越冬量が多い年は、予察灯 4～7 月への誘殺数も多くなる傾向にある（図）。
- ④ 防除所では、引き続きカメムシ調査（予察灯やサクラなどにおける発生状況調査等）を行っていくので、今後の情報に注意する。

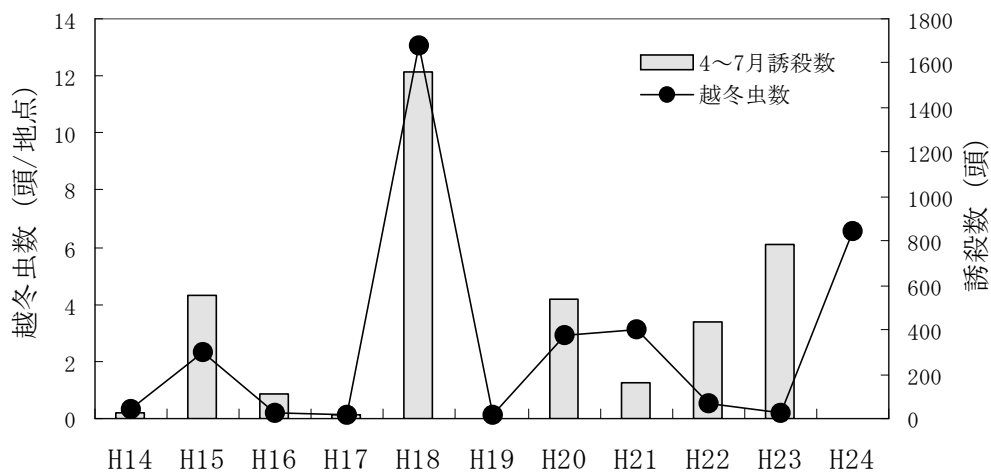


図 1 チャバネアオカメムシ越冬虫数と 4～7 月の予察灯への誘殺頭数

## 麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

赤かび病は、麦の収量や品質を低下させる大きな原因となる。また、本病原菌はDON(デオキシニバレノール)やNIV(ニバレノール)等のかび毒を産生するため、農産物検査規格における赤かび粒混入率の許容値は0.0%と厳しく設定されている。

本病は、小麦及び六条大麦では開花期から10日程度の間が最も感染しやすい時期であり、この期間に気温が高く降雨が続くと発生が多くなる。予防的な防除が重要であり、防除適期は、小麦では開花始期～開花期、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時、二条大麦では穂揃期の10日後頃に穂から葯が出ているのを確認した時である。

農研速報(3月21日発表)によると、龍ヶ崎市では、農林61号の出穂期は平年より8～10日遅く、カシマムギでは10日遅くなると予想されている。表1及び表2に、防除所の調査圃場及び農業研究所(龍ヶ崎市)における予測出穂期と防除適期を示した。播種期や麦種によって、予測される出穂期や防除適期が異なるため、圃場ごとに生育ステージを確認して効果的な薬剤防除を実施することが重要である。

表1 幼穂長から予測した出穂期と赤かび病の防除適期(平成24年3月26日現在)

麦種	調査地点(地域)	播種期	品種	幼穂長(mm) (調査日)	予測 出穂期 <sup>1)2)</sup>	予測 防除適期 <sup>3)</sup>
六条 大麦	那珂市(県央)	11月14日	マサカドムギ	3.1 (3月22日)	4月26日	4月29日頃
	つくば市(県南)	11月25日	カシマムギ	2.0 (3月21日)	4月30日	5月3日頃
	常総市(県西)	11月23日	マサカドムギ	4.0 (3月23日)	4月23日	4月26日頃
小麦	つくば市(県南)	11月16日	農林61号	1.4 (3月21日)	5月4日	5月11～14日頃
	筑西市(県西)	12月12日	農林61号	1.0未満 (3月21日)	- <sup>4)</sup>	-

1) 出穂期の予測は平成18年度普及に移す成果(農業研究所)の計算式を利用した。

2) 予測の際、平均気温は、計算日の前日までは各調査地点付近のアメダス観測所(水戸、つくば(館野)、下妻)の実測値を利用し、計算日以降は同観測所の平年値(1981～2010年)を利用した。

3) 予測防除適期は、六条大麦は出穂期3日後、小麦は出穂期7～10日後とした。

4) 本予測は幼穂長1mm以上を対象としているため、予測を行わなかった。

※予測値は現時点での計算値であり、今後の気象条件等によって変動する可能性もあるので注意する。

表2 農業研究所(龍ヶ崎市)における幼穂長から予測した出穂期<sup>1)</sup>と赤かび病の防除適期(平成24年3月19日現在)

麦種	播種期	品種	幼穂長(mm)	予測 出穂期	予測 防除適期
六条 大麦	11月9日	カシマムギ	5.6	4月19日	4月22日頃
小麦	11月9日	農林61号	2.6	4月27日	5月4～7日頃
	11月24日	農林61号	1.2	5月3日	5月10～13日頃

1) 農研速報(3月21日発表)より引用した。

赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上で、湿度 80%以上か降雨日とその翌日」とされている。飛散好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布後7～10日に2回目の散布を行う。ただし、薬剤によっては出穂後1回しか使用できないものもあるので注意する。

## イチゴ

### 1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、被害葉率、発生地点率ともに平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、同一薬剤の連用を避ける。
- ③ ミツバチに影響する薬剤もあるので、十分注意する。
- ④ 天敵農薬としてチリカブリダニ剤等を使用している場合、薬剤防除は天敵への影響に十分注意する。

## 促成・半促成ピーマン

### 1. うどんこ病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、発病度は平年よりやや高く、発生地点率は平年より高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が多くなると防除が困難になるため、発生が少ないうちに防除を徹底する。
- ② 罹病部は新たな伝染源となるため、病斑の多い葉は取り除き、ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう、十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、系統の異なる薬剤を散布する。

### 2. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在、寄生花率、発生地点率ともに平年より高く、被害果率は平年並である。

(促成・半促成ピーマン アザミウマ類 続き)

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や花にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、系統の異なる薬剤を散布する。
- ③ 天敵を導入しているハウスで薬剤防除をする場合、天敵への影響に十分注意する。

**施設野菜（促成トマト，促成キュウリ，イチゴ，促成・半促成ピーマン）**

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い（促成トマト）	県下全域
	平年並（促成キュウリ，イチゴ，促成・半促成ピーマン）	

[予報の根拠]

- ① 3月下旬現在，促成トマトにおける発生量は平年よりやや多く，促成キュウリにおける発生量は平年並～やや多い，イチゴ，促成・半促成ピーマンにおける発生量は平年並である。
- ② 気象予報によると，向こう1か月の降水量は平年並か平年より少なく，日照時間は平年より多いと予想され，発生を助長する条件ではない。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風，暖房等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪く残った花卉や，罹病部は早急に取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。
- ④ 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。
- ⑤ 薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続き薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
麦類	赤かび病	発生時期：遅い 発生量：—	農研速報(3月21日発表)によると，龍ヶ崎市では農林61号(小麦)の出穂期は平年より8～10日遅く，カシマムギ(大麦)では10日遅くなると予想されている。麦の生育状況を正確に把握して，適期防除を行う(詳細は防除所レポート参照)。
イチゴ	炭疽病	発生量：多い	3月下旬現在，平年より多い発生である。発病株は抜き取り適切に処分する。

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
促成ピーマン	斑点病	発生量：やや多い	3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
促成キュウリ	タバココナジラミ	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	ミナミキイロアザミウマ		
メロン	つる枯病	発生量：平年並 ～やや多い	3月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	菌核病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。
	べと病		
春ハクサイ	白斑病	発生量：やや多い	3月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
春レタス	斑点細菌病	発生量：やや多い ～多い	3月下旬現在，平年より多い発生である。トンネル内が過湿とならないように注意する。
	菌核病	発生量：平年並	3月下旬現在，平年並の発生である。



## 促成トマトの黄化葉巻病について

### [現在の状況]

- ① 3月下旬現在、促成トマトにおける黄化葉巻病の発生地点率は過去5年中1位と高く（本年40%、平年11%）、発病株率も過去5年中2位（本年0.3%、平年0.2%）とやや高い。
- ② 発病圃場では発病株が抜き取り処分されていない圃場が目立つ。今後気温の上昇とともにタバココナジラミが活動的になるため、保毒虫の増加やハウス外への飛び出しが懸念される。

### [防除上注意すべき事項]

- ① 発病が認められた株は、伝染源となるため早期に抜き取り、ビニール袋等に入れて密封し、株を腐熟化するなどしてから処分する。
- ② ハウスの開口部には0.4mm目合い以下の防虫ネットを設置し、タバココナジラミのハウス内の侵入、及びハウス外への飛び出しを防止する。
- ③ 媒介虫であるタバココナジラミを防除する際は、寄生する葉裏に十分薬液がかかるよう、下方から吹き上げるよう丁寧に散布する。
- ④ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。
- ⑤ その他詳細については病虫害防除所ホームページに記載されている「トマト黄化葉巻病対策チラシ」を参照する。

### 防除所レポート [平成24年度赤ナシ無袋栽培病虫害参考防除例の修正について]

平成23年12月21日発表の病虫害発生予報1月号の3ページの防除所レポート「平成24年版果樹等病虫害参考防除例について」以下のとおり修正頂きますようお願いいたします。

#### ○修正前

[赤ナシ無袋栽培]

- ・落花期（注意事項欄）：オサダンフロアブルが製造終了のため、マイトコーネフロアブルに変更しました。

#### ○修正後

[赤ナシ無袋栽培]

- ・落花期（注意事項欄）：オサダンフロアブルが製造終了のため、ダニサラバフロアブルに変更しました。

なお、マイトコーネフロアブルについては、6月以前にナシに散布すると、新葉に薬害が発生する事例が報告されております。



## II. 今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3月24日から4月23日)

気象庁 (3月23日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	30	50	20
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	20	30	50

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが, 平年に比べ晴れの日が多い見込みです。

<1週目の予報> 3月24日(土曜日)から3月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 50%

<2週目の予報> 3月31日(土曜日)から4月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率 40%

<3週目から4週目の予報> 4月7日(土曜日)から4月20日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率 40%

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。